

「国際結婚アンケート調査第二次報告会開催される」

カナダ邦人医療支援ネットワーク（ジャムズネットカナダ）の主催により、国際結婚アンケート調査第二次報告会が、2015年8月4日（火）、午後2時から4時まで、在トロント日本国総領事館さくらルームにて行われた。報告者は、調査研究代表者である米メリーランド州のロヨラ大学の岩崎美智子・心理学博士で、日本語で行われた。当日の参加者は、会場の関係で定員が20名と限定され、当日の欠席者もあったため18名にとどまったが、オタワより白石医務官、トロント近郊の大学から3名の研究者も参加され、話し易い雰囲気、かつ内容の濃い、充実した会となった。

最初に、ジャムズネットカナダ会長の傳法氏の挨拶、引き続き、在トロント日本国総領事館の吉本首席領事、ジャパニーズ・ソーシャル・サービス（JSS）会長デビット池田氏の挨拶があった。

今回の報告会は、2014年6月22日に行われた第一次報告会をさらに深く掘り下げるために開催された。この調査の背景には近年におけるアメリカ・カナダ両国での異人種間結婚の増加があり、その中でも「日本人（特に日本人女性）によるものが他の人種に比べて非常に高いことがある。また国際結婚の離婚率も日本人同士の結婚に比べると高く、2014年4月1日の日本のハーグ条約加盟もあり、現状調査に踏み切ったということだ。目的については「アメリカとカナダに住む日本人の国際結婚の実態調査を行い、幸せな国際結婚のための秘訣や問題点を明らかにし、今後の支援作りにつなげることである」と説明された。アンケートは、ジャムズネットニューヨーク、ジャムズネット東京の協力のもとインターネットでの質問表を邦人ネットワークを通じて、2013年10月6日から12月31日まで行われた。その結果778人（アメリカ510人、カナダ268人）から回答を得た。両国共に男性の参加者が非常に少なかったため、統計は各国の1年以上の結婚経験のある女性参加者について行われた（アメリカ474人、カナダ257人）。カナダの回答者の83.7%は五大都市（トロント、モントリオール、バンクーバー、カルガリー、オタワ）に住んでいる。また回答者の各州別の内訳は、オンタリオ州47.9%、ケベック州21.8%、ブリティッシュ・コロンビア州10.5%、アルバータ州8.6%、ノバスコシア州3.5%となる。

岩崎氏はアンケート結果として、回答者の国際結婚背景（結婚歴、配偶者の人種・国籍・雇用、知り合ったきっかけ、デート期間等）、文化変容（英語力、日常の食生活、日常の人付き合い、日本人コミュニティとの関わり、日本の伝統や季節の行事、文化意識）、国際結婚の決め手となった理由、国際結婚満足度、人種差別の経験の有無に関する分析結果を報告された。国際結婚の決め手となった理由で最も多かった回答（約75%）は、「たまたま好きになった人が外国人であった」であったが、「日本人男性に魅力を感じなかったから」という回答が約10%あった事も注目すべき点である。カナダの場合、国際結婚の平均満足度は80%となったが、約38%の98人は「現在頻繁に悩んでいる問題あり」とも、回答

していた。その問題の上位には1. 親族との問題、2. 金銭的問題、3. 老後の心配、が入ってくる。約92%の237人は人種差別の経験ありと回答していた。最も多かった経験は、「日本と他のアジアの国をごちゃまぜにされた」(80%)であったが、中には「自分一人の時と結婚相手と一緒にいる時と周囲の態度や対応が違う」という回答が約34%あった。配偶者が「人種差別についての理解やサポートに欠ける」と回答した人も全体の36%にのぼる。

第一部の発表の後、10分間の質疑応答を行い、参加者から「アメリカとカナダでの人種差別の比較について」等の質問があった。

休憩をはさんで、第二部では最初に、海外での子育てに関する報告(子育ての役割分担、海外の子育てで難しい事、子育てについての相談や情報入手する相手や手段)がされた。子育ての役割分担として日本人女性が70%以上の役割をこなしており、日本語教育にも力を入れている。海外の子育てで難しいと思っている回答の中で最も多かったのは、頼れる自分の親や他の家族がいつも近くにいない事であった(41%)。相談手段として、日本語を話す友人が最も多かった(74%)。その後、岩崎氏から参加者に対して、「あなたの老後について心配な事を3つあげて下さい」との質問があった。参加者の中からは、経済、健康、介護等の意見が出された。アンケート結果でも同様に、金銭面、住居、健康、医療と介護サービス、家族・親友、コミュニケーションについて多くの回答者が心配している事が明らかになった。

離婚に関する報告では、回答者227名中、約33%は「離婚を真剣に考えた事がある」、「現在、離婚を進めている」、「離婚した」と回答した。離婚の原因として、1. 性格の不一致、2. 文化・生活習慣の違い、3. コミュニケーションの問題が上位3位となる。この調査では、国際結婚間におけるドメスティックバイオレンス(DV)は、回答者257名中、21%の割合で発生していることがわかった。アメリカ・カナダともにDV被害者の半数は友人・知人に相談するにとどまり、約27%は誰にも相談せずに一人で悩んでいる。DV専門団体、弁護士、警察への相談は各々10%と少なく、日本大使館や領事館への相談は4%と非常に低い事も判明した。最後に岩崎氏から『あなたが思う「幸せな国際結婚を保つ3つの秘訣」は何ですか?』という問いが参加者に投げかけられた。それに対してコミュニケーション、家族へのコミットメント等の声が会場から上がった。アンケート結果からも、コミュニケーション(豊かな会話、妥協)、親密さと精神的サポート、子どもと家族へのコミットメント、結婚へのコミットメント等が挙げられている。そして、国際結婚において満足度が高くなる要因として、結婚歴7年以内、子どもがいない、英語力がある、家計収入が多い、人種差別に対する夫からの理解度、子育て平等主義、性格(控えめで周囲の皆に合わせる性格、あまり心配せずよくよく考えない性格)が指摘され、最後に、幸せな国際結婚を保つ3つの秘訣として大切なことは、1. コミュニケーション、2. 親密さと精神的サポート、3. 共通の価値観と時間であると説明された。JSS会長からは、DVの相談件数が急増しているとの報告がなされ、ジャムズネットカナダの会長からは、今後各州のメンバーの中でカウンセリング担当の専門職を中心に在外公館と協働して、相談でき

ずに追い詰められていく人々を支えるネットワーク作りに取り組んでいきたいとの所信表明があり、報告会は終了した。

(ジャムズネットカナダ 中村仁美 記)